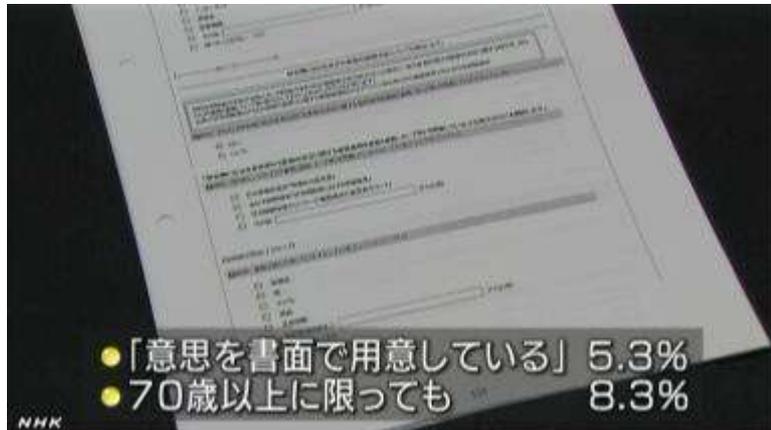


「延命処置望まず」も意思表示は僅か

5月14日6時31分



千葉県が独自に行った終末期医療に関する意識調査で、86%の人が延命処置を望まないと回答したにもかかわらず、そうした意思を書面で用意している人は5%にとどまっていることが分かり、千葉県は本人が望む形で終末期を迎えられるよう意思表示の仕組みや、啓発の方法について検討していくことになりました。

この調査は、終末期医療を巡る意識を探ろうと、千葉県がことし2月に初めて行ったもので、40歳以上の県民1万人余りが回答しました。

この中で、自身に死期が迫ったときに胃に穴を開けてチューブで栄養を送るなどの延命処置を望むかという質問には56.8%の人が「望まない」と回答し、「どちらか」というと望まない」と回答した人と合わせると、全体の86%に上りました。

一方で、そうした意思を書面で用意していると答えた人は5.3%にとどまり、70歳以上の人に限っても8.3%でした。

終末期医療を巡っては、病気などで意思の疎通が難しくなった患者の場合、延命処置を続けるか家族や医師が難しい選択を迫られることがあります。

このため千葉県は「本人が望む形で終末期を迎えられるよう、今年度中に終末期医療について自身の意思表示をしやすい仕組みや、啓発の方法について検討を進めていきたい」としています。